令和元年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

資料１

基本事項

事業名	身体と記憶 アーツ前橋所蔵作品から		
会期	2019/4/19－2019/7/9　/71	開館日数	71 日間
会場（ギャラリー）	ギャラリー1	実施方式	01自主企画・単独方式
観覧料	一般　－ 割引　－	出品点数	20 点
担当者	学芸：今井　朋　　事務：堺　大輔		
目的（一覧表）	アーツ前橋の所蔵品を中心に、地域ゆかりの作家や作品を紹介する。開館以来、継続している作品の収蔵によりコレクションがより魅力的なものになっていることを知ってもらう。		
キーワード	平成30年度新収蔵作品の展示		
他団体との連携（共催・協力等）			
参加作家	片山　真理 / 小野田　賢三 / 平野　薫 / 石内　都 三輪　途道 / 清水　刀根 / 池田　カオル		
関連イベント	6月15日　学芸員によるギャラリーツアー		

①投入（支出）・③結果（収入）

印刷物等	ポスター（B2）	チラシ（A4）	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録
	－	－	－	－	－	－

収入／支出	収入（A）	支出（B）	収支比率（A）／（B）	入館者一人当たりコスト	収入内訳 観覧料	助成金	他
予算		470,000 円		78 円			
決算見込		269,780 円		54 円			
差額		−200,220 円		－			
予算／決算		57.4%		69.1%			

②内容・活動

[②内容] 事業の概要	事業の概要（転記）	新たに収蔵された作品、近年前橋市が収蔵した美術品を取り上げ、作家や作品をこれまでのアーツの企画展との関わりとともに紹介する。
[②活動] 主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成　など	・広報戦略 ・新たな試み（転記）	1.新収蔵作品の公開 2.作家研究に基づいた展示構成。 3.鑑賞補助資料の作成(キャプションなど)
●指標 来館者反応 コメント	広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］	コレクション展であり、予算も限られることから紙媒体の広報物の作成は行わなかった。告知はHPやフェイスブックなどのネット媒体を中心に行った。石内都、片山真理などの話題性の高い作家の作品が多くあったため、作家の知名度が広報に役立った。
	新たな試みの実績	・予算および労力の省力化を図るため、ネットのみの広報を行った。 ・現存作家が多いことから、収蔵作品展でありながらも、作家とともに作品展示作業を行うことで、通常のコレクション展示よりも空間をうまく利用した展示を考えることができた。 ・視覚だけではなく楽しめる作品を展示するようにした。 ・女性作家を中心に展示

③結果

入場者数（参考数値）上段：人数（人）下段：割合（%）※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計（人）	日平均（人）
	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	4,981	70
有料観覧者率　0.0%	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		

一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項
	入場・参加者数	6,000 人	4,981 人	83.0 %	
	展覧会満足度	80 %	71.0 %	−9.0 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合（無回答を除く）

令和元年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

③結果	事業名	身体と記憶 アーツ前橋所蔵作品から	
	進捗管理 [スケジュール観]	Ⓐ概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった( ) 開館後まで積み残しとなった事項(　　)	
④成果	[④成果] 一覧表の「目標」に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット	近隣住民、市外の美術愛好者
		成果	アンケートやSNSでの反応も非常に少なかった。
		ねらい1(転記)	1.コレクションへの理解が深まる
		成果	ねらいを設定する際に、どのように効果検証ができるのかを事前に想定しておく必要があった。
		ねらい2(転記)	2.前橋に関わってきた近・現代作家を知る機会
		成果	「群馬は有能なかたの宝庫だ」とアンケートにある通り、群馬ゆかりの作家の豊かさを作品を通じて知ってもらう機会になったようだ。 お客様からは片山真理作品へのポジティブな言及が多くみられた。
		ねらい3(転記)	3.気軽に美術に親しめる場としてのイメージの定着
		成果	紙媒体での広報を行わなかったが、入場無料であったからか、通常程度の入場者数はあった。さらに、SNSを活用できればもう少し入場者数を伸ばせたかもしれない。
⑤波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> 1. 参加作家のその後の活動を評価⇒片山真理の作品は、その後、他館からの貸し出し依頼があった。(2019.11.21.) *2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒後日記入* *3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒後日記入* *4. 事業の実施に伴う波及効果　⇒後日記入* 5. 地域資源の活用という点での効果　⇒地域の作家を取り上げることで、鑑賞者の地域の人材発見に繋がった。(2019.11.21.) *6. 意図せざる(思わぬ)効果　⇒後日記入*	
自己評価(担当者)	効率性　①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い　②良い　3.普通　4.劣る	
	合目的性　②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い　2.良い　③普通　4.劣る	
	事業の将来性　②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い　2.良い　③普通　4.劣る	
	社会的将来性　③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い　2.良い　③普通　4.劣る	
	課題・改善点	紙媒体の広報をなくすことで、予算や労力の効率化は図れた。ホームページやフェイスブックを利用した広報はおこなったが、紙媒体を作らない企画展では、ツイッターやインスタグラムなどのSNSをさらに活用するべきだった。	
引継ぎ事項(特記事項)		コレクション展の今後の広報の在り方は、さらに検討する余地がある。大きな予算を使わなくても、有効な広報を考えていきたい。	
コメント・意見		館長 副館長	石内都や片山真理のようにこれまで継続的に調査をおこなってきた作家の作品を収集してきた成果を見せることができた。今後、収集作品の核となっていく可能性がある作品をどのように文脈づけていくことができるかについて考えていくためのステップとなった。
		運営 評議会	

最終更新日:R1.11.24

令和元年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

基本事項

事業名	やなぎみわ　神話機械			
会期	2019/4/19～2019/6/23　/57		開館日数	57 日間
会場（ギャラリー）	地下ギャラリー		実施方式	3共同企画・分担金方式（巡回
観覧料	一般　600 円		出品点数	50点
	割引　400 円			
担当者	学芸：辻　瑞生　事務：堺　大輔			
目的（一覧表）	これまでの地域ゆかり作家という枠から離れ、国内外の第一線で活躍するアーティストの個展を開催する。美術と舞台（演劇）を行き来しながら、スペクタクル性とドキュメンタリー性が交差するような作品を発表する、やなぎみわを紹介することで、現代美術作家の創造力に触れる機会をつくる。			
キーワード	やなぎみわ　演劇　美術　機械工学　巡回展			
他団体との連携（共催、協力等）	共催：読売新聞社、美術館連絡協議会			
	巡回館：高松市美術館、福島県立美術館、神奈川県民ホール、静岡県立美術館			
	協力：京都造形芸術大学、群馬工業高等専門学校、ほか3学校			
参加作家	やなぎみわ			
関連イベント	5/17, 18　ライブパフォーマンス『MM』			
	5/19　やなぎみわ講演会			
	5/11ロボット体験会			
	5/12、6/1学芸員によるギャラリートーク			
	6/3～9　おしゃべりアートデイズ（対話による作品鑑賞会）			

①投入（支出）・③結果（収入）

印刷物等	ポスター（B2）	チラシ（A4）	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録
	850 部	50,000 部				470冊

収入／支出		収入（A）	支出（B）	収支比率（A）／（B）	入館者一人当たりコスト	収入内訳 観覧料	助成金	他
	予算	1,000,000 円	13,798,000 円	7.2%	2,760 円			
	決算見込	1,173,100 円	13,487,320 円	8.7%	3,815 円	946,600 円		226,500 円
	差額	173,100 円	-310,680 円	1.5%	－			
	予算／決算	117.3%	97.7%	120.0%	138.3%		#DIV/0!	

②内容・活動

[②内容]事業の概要	事業の概要（転記）：1990年代から現在まで現代美術および演劇界で注目を浴びてきた、やなぎみわの約10年ぶりの大規模個展。代表作を展示し足跡をたどるほか、新作では群馬、京都、高松、福島の学校と連携し、マシン4機が演劇を演じる作品を発表する。
[②活動]主な取組（手段）の結果・メディア等広報実績・新たな試み　図録　関連イベント　助成　など	・広報戦略・新たな試み（転記）：1.全国の美術館と合同で企画することで、各館のノウハウを学ぶ。 2. 担当の分担により。業務の効率化を図る。 3. 先行開催館に合せることで、早くからの広報活動が行える。 4. 群馬工業高等専門学校との連携により、他分野へアプローチする。
●指標　来館者反応　データ	広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］：・上毛新聞に群馬高専との連携が紹介される（4/17） ・読売新聞群馬版（4/23、24, 25の3回連載） ・群馬テレビJUST6、ニュースeye8（5/9） ・ほっとぐんま640（5/17） ・NHK日曜美術館アートシーン（6/9）
	新たな試みの実績：・チラシ、ポスター等の印刷物の作成が速やかに進行できたが、配布計画が滞ったために通常通りの配布となった。 ・県内の工業高校の団体見学があった。

③結果

入場者数（参考数値）上段：人数（人）下段：割合（%）※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計（人）	日平均（人）
	1,494	108	248	9	197	673	38	78	258	432	3,535	62
有料観覧者率　53.7%	42%	3%	7%	0%	6%	19%	1%	2%	7%	12%		

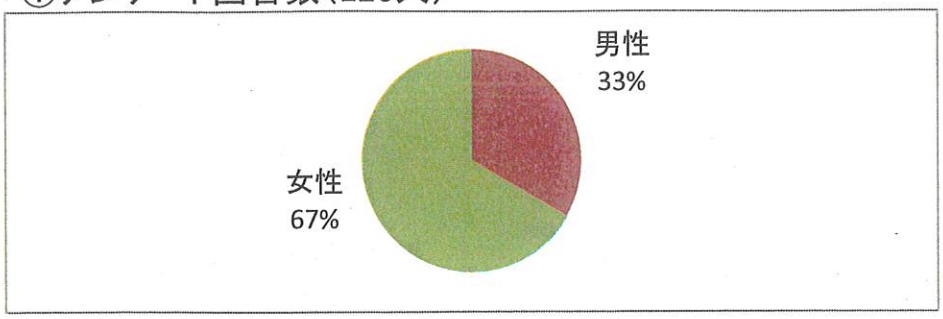
一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項
	入場・参加者数	5,000 人	3,535 人	70.7 %	
	展覧会満足度	80 %	70.0 %	-10.0 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合（無回答を除く）

令和元年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

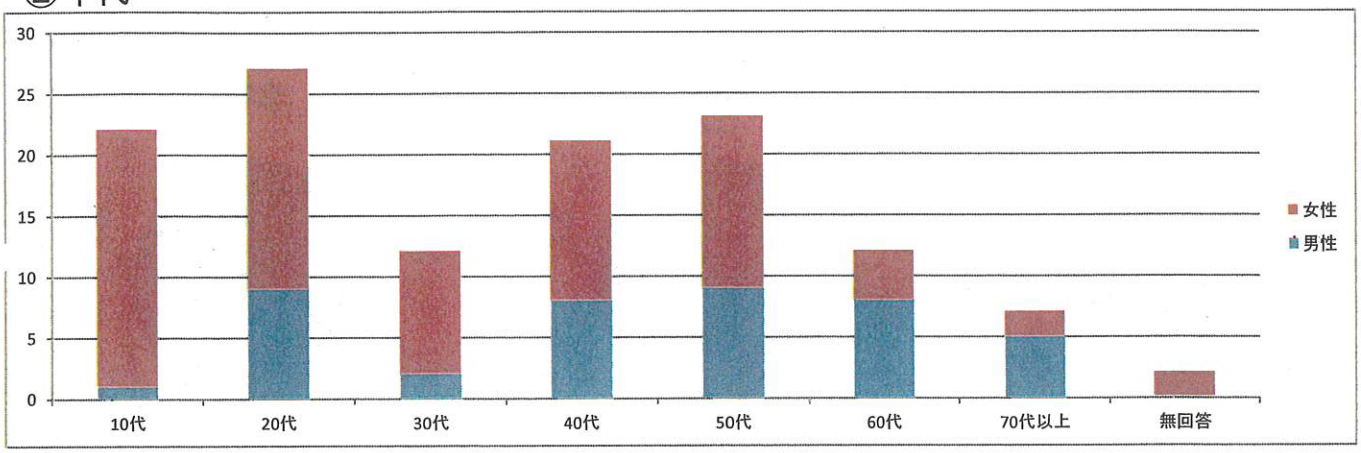
③結果	事業名	やなぎみわ　神話機械	
	進捗管理 [スケジュール観]	Ⓐ概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった( ) 開館後まで積み残しとなった事項(　　)	
④成果	[④成果] 一覧表の「目標」に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット	関東近県、美術や演劇の愛好者
		成果	高松市美術館に続いて、関東では最初の開催であったことから県外からの来場者を見込んでいたが、アンケートでは3割にとどまった。アンケートでは20代が一番多く、続いて50代、40代とやなぎと若者から作家と同世代まで幅広い世代が来館した。ライブパフォーマンスには遠方から多くの申し込みがあった。
		ねらい1 (転記)	1.日本を代表する現代美術作家の汲み尽くせぬ創造力に触れる機会の創出
		成果	写真、立体、映像、インスタレーション、パフォーマンスと現代美術の多様な表現に触れることができた。特にマシン4台による演劇は、1日3公演と限られた上演にも関わらず、鑑賞者には好評であった。
		ねらい2 (転記)	2.アーティストと他分野の専門家との協働および交流により、新たな観客の獲得
		成果	県内の工業高校デザイン科の生徒が団体で来館したほかは、工業系の学生が増加したかは不明であった。
		ねらい3 (転記)	
		成果	
⑤波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> *1. 参加作家のその後の活動を評価⇒後日記入* 2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒諏訪敦(画家)が共同通信で展覧会のレビューを掲載した。 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒①ハラミュージアムアークで同時期に、やなぎみわの作品が展示された。②群馬工業高等専門学校の学生たちが作家の新作制作でマシンを製作した。会期中は、マシンのメンテナンスをしてもらったり、高専ロボコンのロボット教室を開催した。 *4. 事業の実施に伴う波及効果　⇒後日記入* 5. 地域資源の活用という点での効果　⇒作家の演劇プロジェクトでは萩原朔太郎や萩原恭次郎が登場しており、前橋との接点を見出すことができた。 6. 意図せざる(思わぬ)効果　⇒前橋文学館でも萩原朔美館長と作家のトークが実施されることになった。	
自己評価(担当者)	効率性　①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い　②良い　3.普通　4.劣る	
	合目的性　②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い　②良い　3.普通　4.劣る	
	事業の将来性　②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い　②良い　3.普通　4.劣る	
	社会的将来性　③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い　2.良い　③普通　4.劣る	
	課題・改善点	10年ぶりの大規模個展で作家の意気込みも大きく、当初想定していたよりも新作の割合が大きくなった。巡回展であったので予算や進行管理などは分担して効率よく進めることができたが、新作のマシンについては全体像が見えないことや機械工学の専門知識がないために、作家と群馬工業高等専門学校をつなぐ役割を十分に果たすことができなかった。当館は巡回2館目だったので、出品作品は確定していたので印刷物作成や会場構成などは効率よく進めることができた。 開館後、開館してからも1日3回の無人公演を行うために、最初の2週間は学芸員が毎回セットアップし、看視スタッフに引き継いでからも毎回無人公演の様子を見守るなど、スタッフの負担が大きかった。来場者や作品保護のためには大切なことであるが、会期中を通して運営することの大変さを感じた。 アーカイヴ展示では、説明の文字量が多く、ダイジェスト映像が多かったことなど満足度は高かったようだが、関心のない人には情報過多で分かりにくかったようだ。	
引継ぎ事項(特記事項)			
コメント・意見		館長 副館長	現役ですでに高い評価を得ている作家の個展を、他館と協働して実施することができたのは大きな成果があった。1990年代から関西を中心に活躍した作家の調査によって得たことや、困難な新作の制作の経験を今後の企画に活かしてほしい。規模が近い美術館同士のネットワークも大事にしてほしい。
		運営 評議会	

最終更新日:R1.11.24

①アンケート回答数（126人）

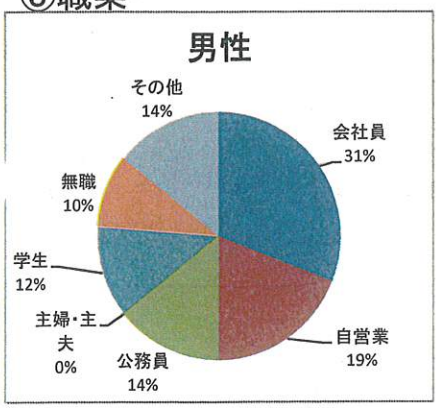


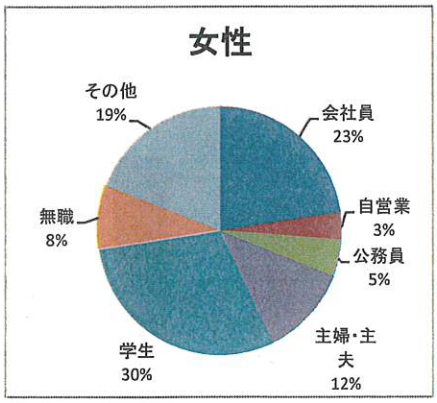
②年代

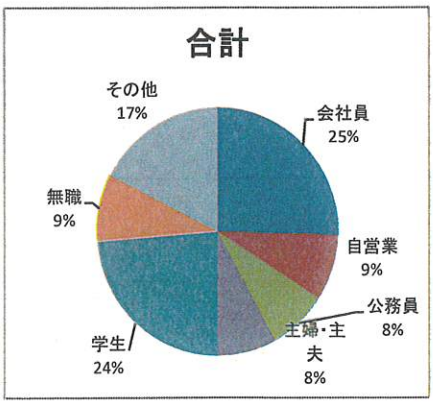


「身体と記憶,やなぎみわ展」 2019.04.19－2019.06.23

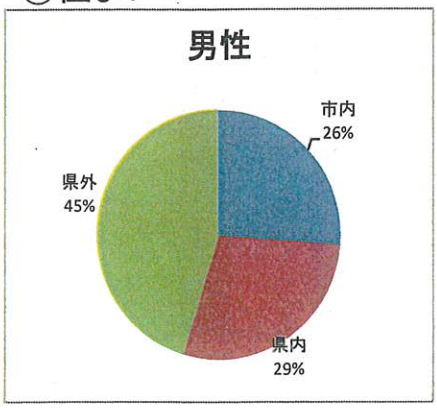
③職業

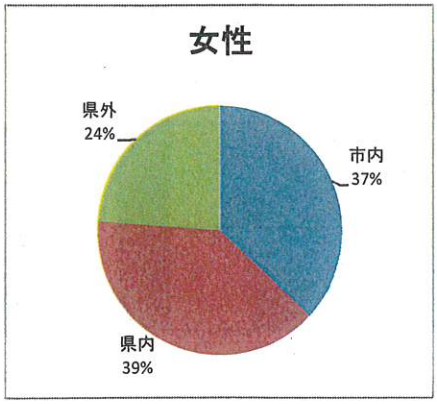


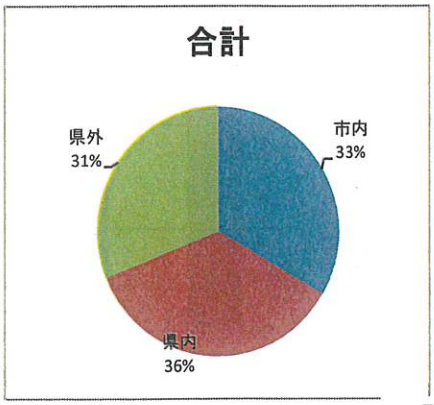




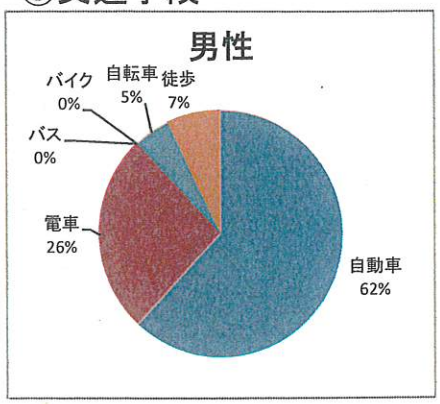
④住まい

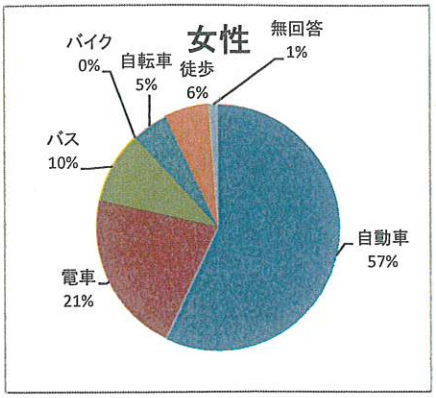


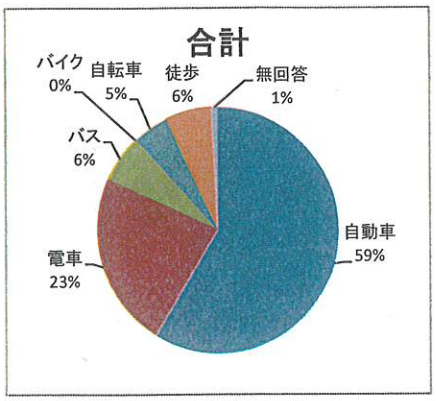




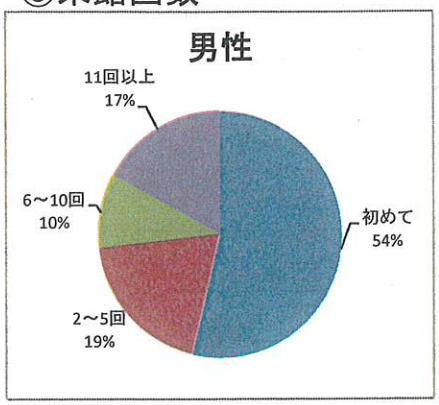
⑤交通手段

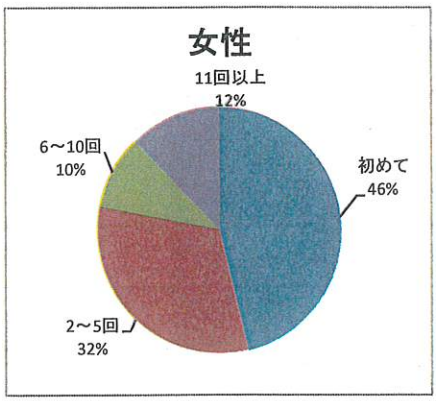


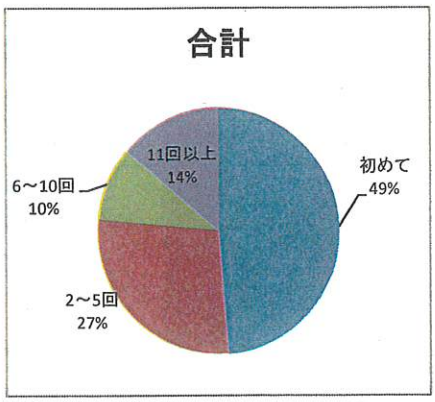




⑥来館回数

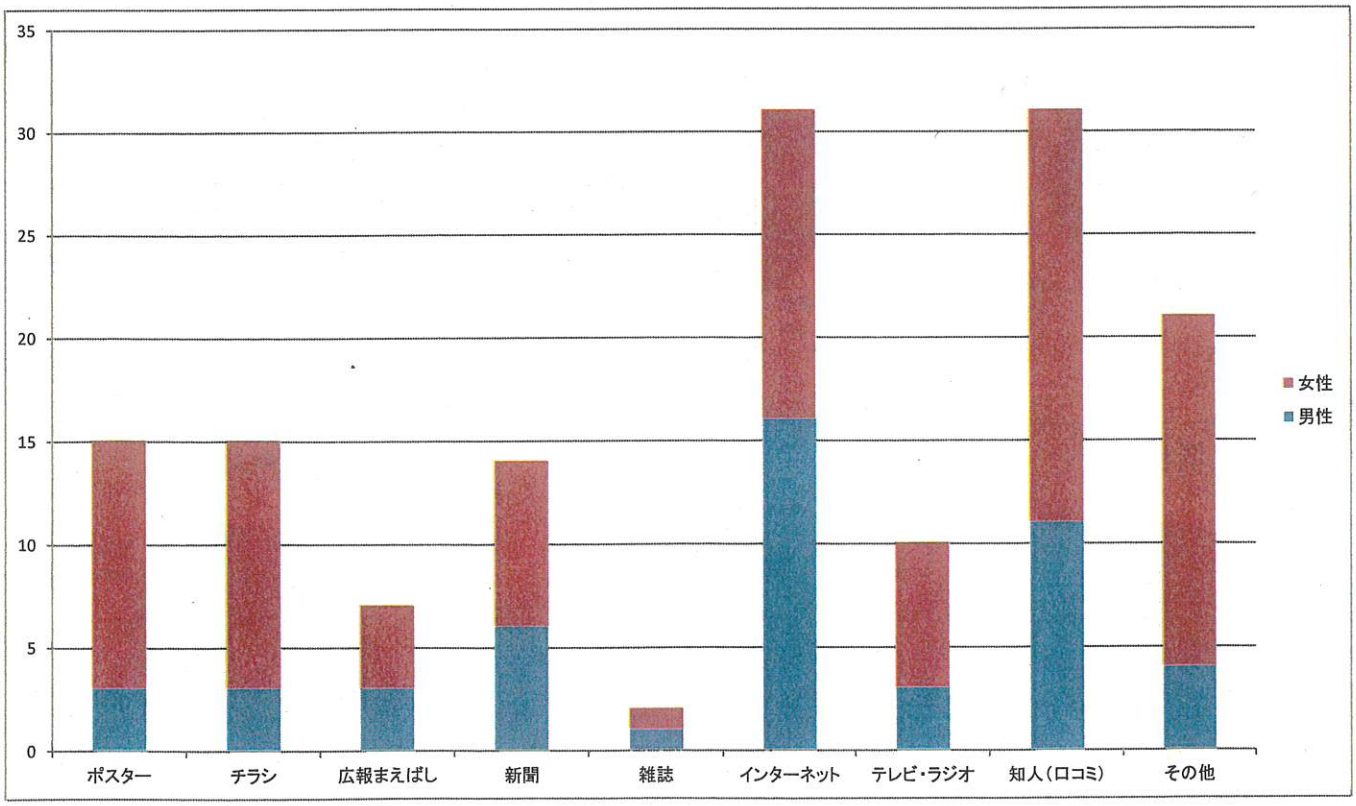




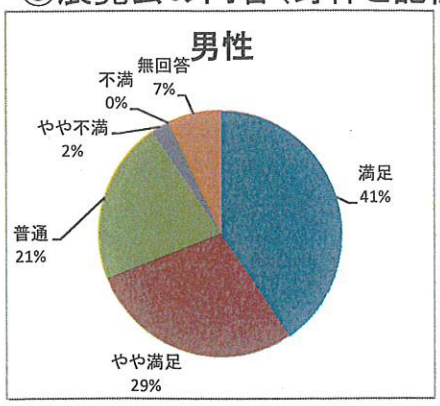


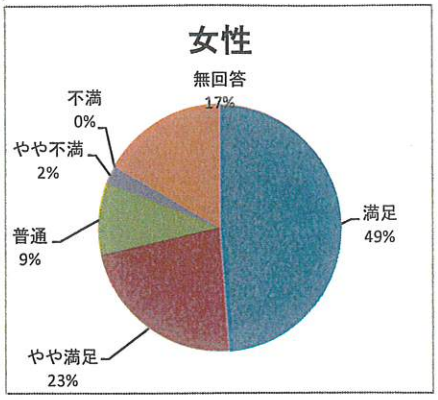
「身体と記憶,やなぎみわ展」 2019.04.19－2019.06.23

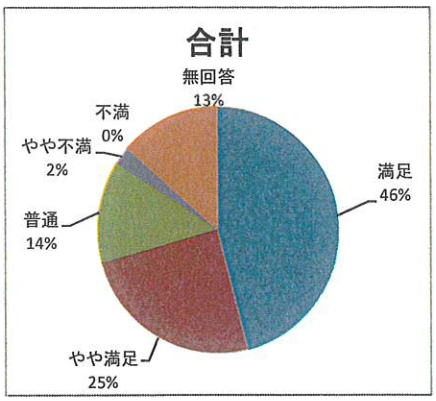
⑦企画展等を知った方法（※複数回答あり）



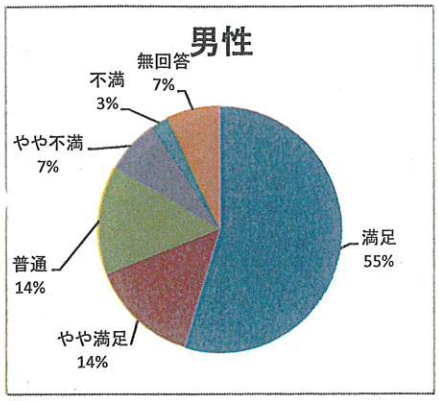
⑧展覧会の内容（身体と記憶）

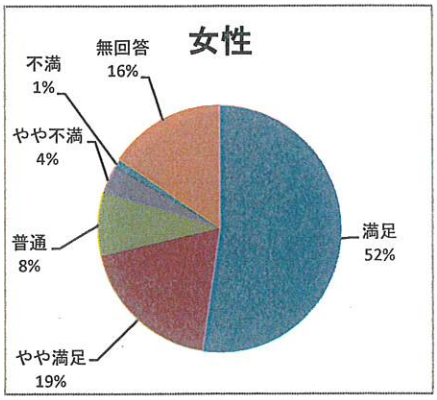


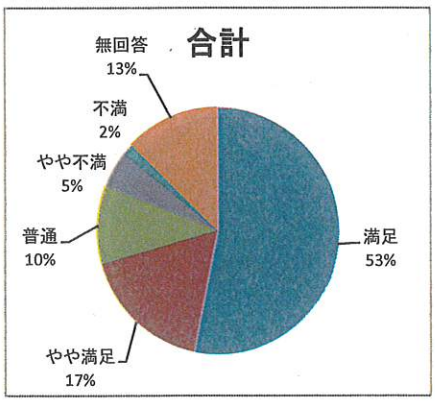




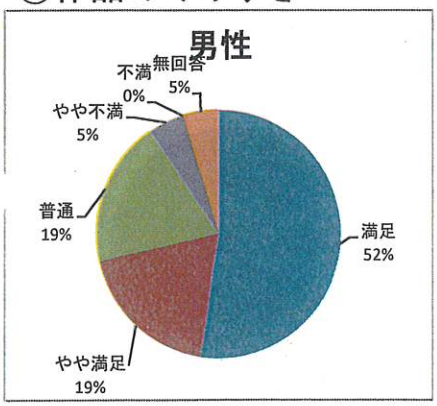
⑧展覧会の内容（やなぎみわ）

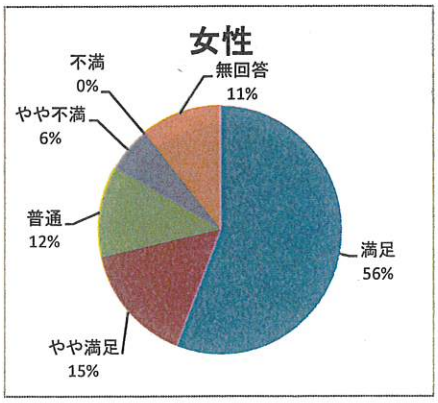


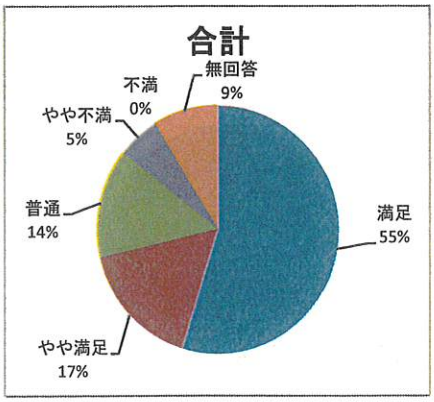




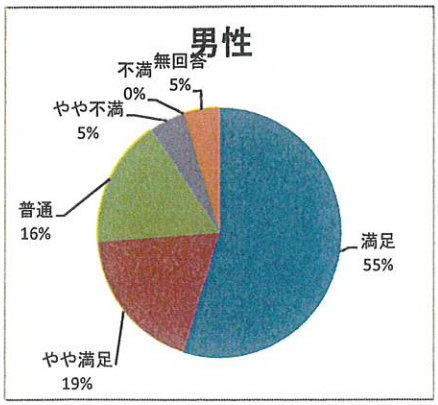
⑨作品のみやすさ

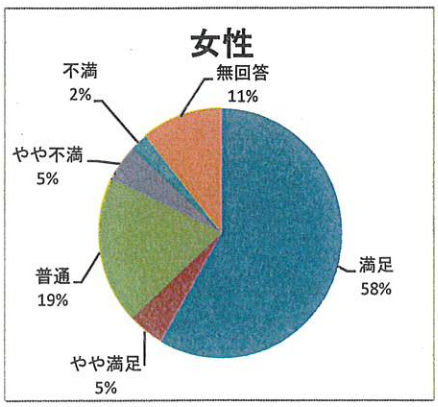


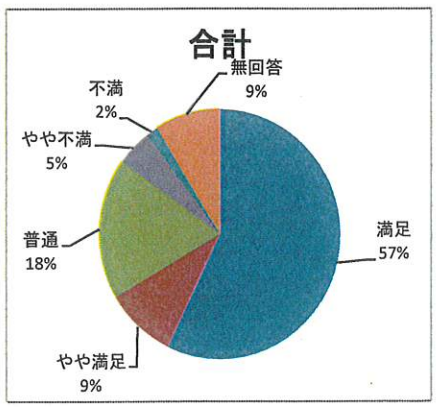




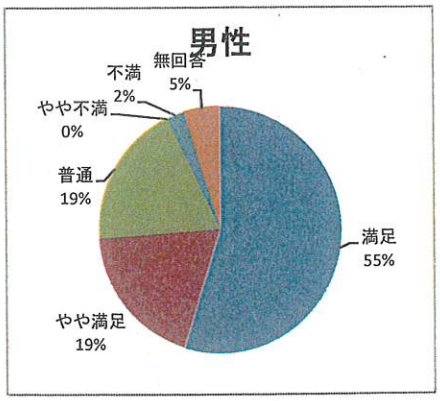
⑩スタッフの対応

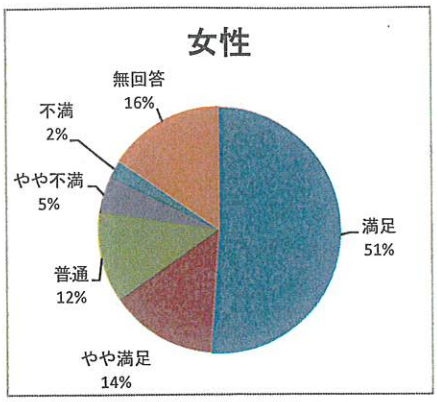


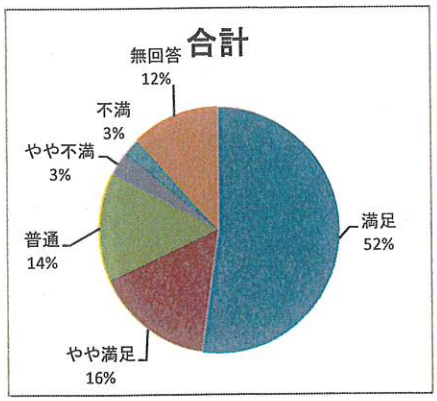




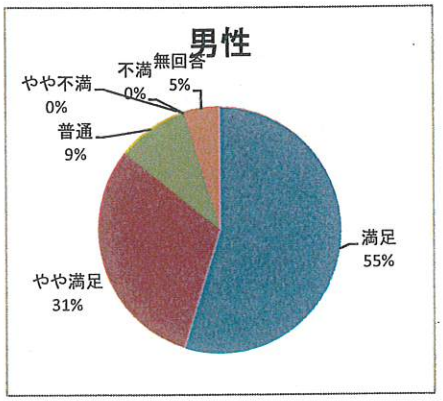
⑪施設の利用のしやすさ

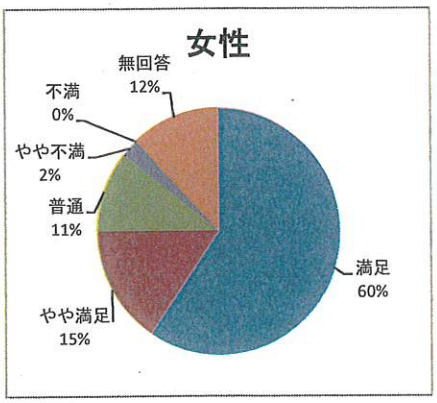


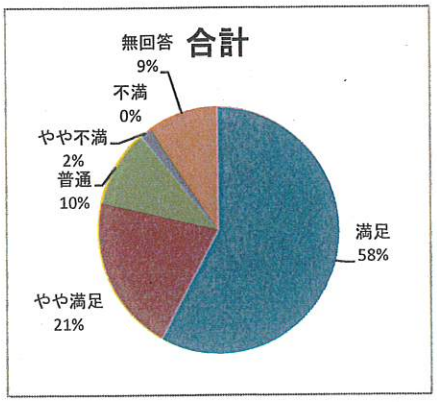




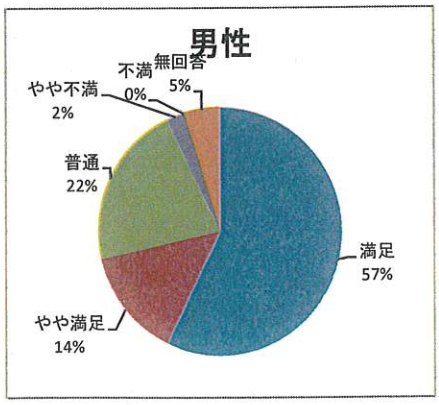
⑫アーツ前橋全体の印象

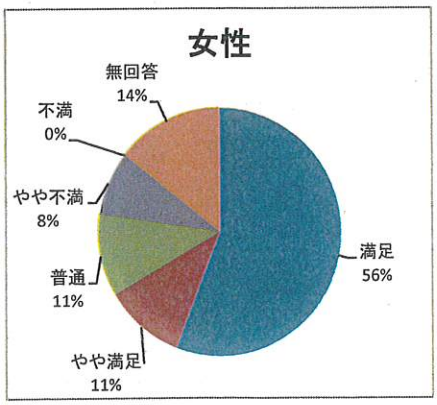


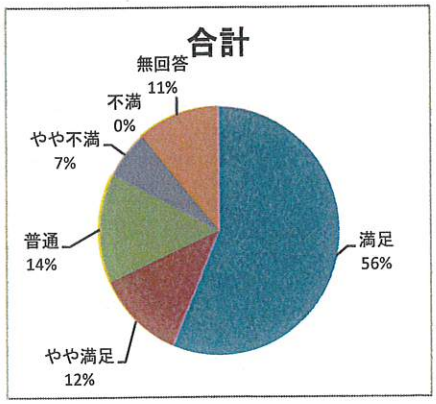




⑬アーツ前橋までの道順のわかりやすさ







（身体と記憶）
●群馬は有能な方の宝庫だ（男性・40代）
●胸にグサリとくるインパクトがあった。（女性・60代）
●片山真理さんの見た事がない作品を見れた　気がする（男性・20代）

（やなぎみわ　神話機械）
●機械のミュージカルは本当によかった。「パノラマ」、朔太郎がいてびっくりした（女性・30代）
●やなぎさんのアーカイブが見られて、とても良かった。様々な展示がとても勉強になりました。（女性・10代）
●やなぎみわさん　少しわかりにくかったです。（女性・50代）
●TVで紹介されていた神話機械をみてみたくて来ました。あちこちの美術館に行っていますが、とても良かったです。（女性・40代）
●驚きの連続でした。県内、市内に展示をもっとアピールしてほしい。私はNHKテレビ日曜美術館で紹介されたのを見て、来場する気持ちをもった。（女性・年代不明）
●一部　資料記事が読めるように配置されているとよかった。（アーティストインタビュー記事など）（女性・60代）
●「女神と男神が桃の下で別れる」の空間が幻想的でした。演劇アーカイブも新鮮で私の心に残りました。（女性・30代）

（共通）
●「聞こえる?」や神話機械など、“観る”だけでなく“聴く”展示もあって楽しかった。（男性・20代）

令和元年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

基本事項

事業名	Art Meets 06 門馬美喜／やんツー		
会期	2019/7/19－2019/9/16 /58	開館日数	58 日間
会場（ギャラリー）	地下ギャラリー（G3、G4、G5、G6）	実施方式	01自主企画・単独方式
観覧料	一般　500 円 割引　300 円	出品点数	26点
担当者	学芸：住友文彦、吉田絵美　事務：新保正夫、狩野良輔		
目的（一覧表）	2名の中堅作家の紹介をする。水墨画によって福島県相馬市の伝統行事に欠かせない馬を描き続け、近年は震災後の相馬～東京間の風景画を制作している門馬美喜と、人工知能を応用したテクノロジーによって生まれる世界と表現を追求しているやんツーの展覧会。		
キーワード	馬／水墨画／IT技術／鑑賞／Web検索		
他団体との連携（共催、協力等）	ターナー色彩株式会社 株式会社HAUS		
参加作家	門馬美喜　やんツー		
関連イベント	7月21日　ワークショップ「Googleが教えてくれないこと-インターネットの裏路地を歩く」 8月3日　ワークショップ「建築廃材で小さな理想のまちを作ろう-木製ブックスタンド製作」 8月4日、24日　学芸員によるギャラリーツアー		

①投入（支出）・③結果（収入）

印刷物等	ポスター（B2）	チラシ（A4）	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録
	－	50,000 部	－	－	2,000 部	－

収入／支出	収入(A)	支出(B)	収支比率(A)／(B)	入館者一人当たりコスト	収入内訳 観覧料	助成金	他
予算	－	1,788,000 円	－	447 円			
決算見込	(340,900)	3,422,463 円	−10.0%	1,418 円	(340,900)		
差額	－	1,634,463 円		－			
予算／決算		191.4%					

②内容・活動

〔②内容〕事業の概要 〔②活動〕主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成　など ●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	
事業の概要（転記）	門馬氏は過去作とシリーズ作品の新作、やんツーは新作を紹介する。新しい技術と共に長い歴史を持つ絵画を見直すような構成をめざす。
・広報戦略 ・新たな試み（転記）	1.それぞれの作家が講師をつとめる参加型ワークショップを計画する。
広報実績［新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件］	インターネット関係に掲載実績があった。 美術手帳Web：（株）美術出版社、　ぐんラボ：朝日印刷工業（株） ART iT：（株）アートイット、　ぴあ：ぴあ（株）
新たな試みの実績	・門馬氏によるワークショップは、夏休み中の開催ということもありすぐに定員に達するほどの人気があった。 ・やんツー氏のワークショップは、参加者が各自スマートフォンを持参し、WEB検索をするという内容だったゆえ、成人の参加者が目立った。

③結果

入場者数(参考数値) 上段：人数(人) 下段：割合(%) ※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計(人)	日平均(人)
	723	83	71	11	341	625	189	58	23	289	2,413	42
有料観覧者率　44.6%	30%	3%	3%	0%	14%	26%	8%	2%	1%	12%		

一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項
	入場・参加者数	4,000 人	2,413 人	60.3 %	当初は1Fギャラリーで無料実施を想定
	展覧会満足度	80 %	72.0 %	−8.0 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合（無回答を除く）

令和元年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

③結果	事業名	Art Meets 06 門馬美喜／やんツー	
	進捗管理 [スケジュール観]	Ⓐ概ね円滑に進んだ B.遅延気味であった( ) 開館後まで積み残しとなった事項(　　)	
④成果	[④成果] 一覧表の「目標」に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット(転	近隣住民、若年層
		成果	夏休み中の開催だったため、会社員の次に学生の来館が多い結果となった。やんツー氏の作品は体験型の要素もある作品であり、若年層を中心に好評であった(アンケートによる)。また、隣接する「前橋プラザ元気21」の企画による親子(乳幼児)連れ団体来館があり、主に近隣の親子が訪れた。夏季開催の展覧会は、若年層の観覧が今後も期待できる。
		ねらい1(転記)	中堅作家に新しい作品発表の機会をつくる
		成果	例年ArtMeets展は1階ギャラリーで行っていたが、今回は地下のギャラリー4～6を使用したため展示スペースが拡大し、旧作もまじえつつ新作も発表する機会となった。展示内容について作家と事前に詳細なやりとりを行い、新作発表を実現することができた。
		ねらい2(転記)	自然や技術と人間の関係を考察できる展覧会にする
		成果	歴史的な逸話を水墨画で描いた門馬氏、AIや最新の情報技術を取り入れたやんツー氏という対照的な二作家で構成しているということが一部の来場者にも伝わった。考察するまでに至ったかどうかは不明な部分である。
		ねらい3(転記)	
		成果	
⑤波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> *1. 参加作家のその後の活動を評価*　⇒二作家ともに、当展の後にも各地で展覧会が続いた(横浜・東京・群馬) *2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価*　⇒後日記入 *3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価*　⇒やんツー氏の個展が高崎のギャラリー(rin art association)にて開催 *4. 事業の実施に伴う波及効果*　⇒後日記入 *5. 地域資源の活用という点での効果*　⇒後日記入 *6. 意図せざる(思わぬ)効果*　⇒作家が当館展示の後も展覧会が続いたため、作家を通じて多くの方にリーフレットを配布できた。	
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い　2.良い　③普通　4.劣る	
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い　②良い　3.普通　4.劣る	
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い　2.良い　③普通　4.劣る	
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い　②良い　3.普通　4.劣る	
	課題・改善点	地域ゆかりの作家ではない国内外で活躍する作家の作品を展示することは、地域のアーティストや学生への刺激にもなり、市民や来場者へ多様な表現を紹介できる機会となっている。課題としては、今回やんツー氏の作品がAII技術をプログラミングしたや電子機器等を使用していたため、予想できないトラブルやメンテナンスが発生した。現代美術を扱う上で、そのようなテクニカル面のトラブルは今後も起こりうると予測できる。その場合どのように対応していくのが良いか検討を続けたい。また、予算が限られている中での新作発表だったため、作家とのコミュニケーションを密にすることが重要だと改めて感じた。他には地下ギャラリーで2つの企画展を同時開催した場合の人数カウントの方法が課題となった。	
引継ぎ事項(特記事項)			
コメント・意見		館長 副館長	それぞれ、横浜と高崎で展示が続く中堅の注目される作家の企画になったのはよかった。やなぎ展との調整で通常と異なる展示室の使い方をしたため、大きく展示室を使うことができたが、有料ゾーンでの展示がいいのかどうかなど検討が必要。
		運営 評議会	

最終更新日:R1.11.24

令和元年度　アーツ前橋事業評価調書（1）

基本事項

事業名	山本高之とアーツ前橋のビヨンド20XX：未来を考えるための教室			
会期	2019/7/19－2019/9/16 /58		開館日数	58 日間
会場（ギャラリー）	1Fギャラリー、地下ギャラリー（プロムナード、G2、ホワイエ）		実施方式	01自主企画・単独方式
観覧料	一般　500 円		出品点数	34点
	割引　300 円			
担当者	学芸：沼下桂子、今井朋　事務：新保正夫、小屋綾子			
目的（一覧表）	これまでのラーニング・プログラムでかかわりを持ってきた教育関係の人々と協働してプログラムを行う。また山本高之氏をゲストキュレーターに迎えることで、参加者と美術をつなぐラーニングの意味を問い直し、誰でも学ぶことの出来る展覧会となることを目指す。			
キーワード				
他団体との連携（共催・協力等）	ビヨンド2020			
	群馬大学教育学部美術教育講座、㈱すいらん、(学)清心学園　清心幼稚園			
	前橋シネマハウス			
参加作家	山本高之	所蔵作家	アーツ前橋学芸員	
関連イベント	7月27日　ワークショップ　近未来SF映画のワンシーンをつくろう			
	7月28日　ワークショップ　山本高之と行く群馬の森			
	8月2日　トーク＆ライブ　サーキットベンディングの世界～講義			
	8月25日　トーク　図工と道徳			
	9月15日　ワークショップ　サーキットベンディングの世界～実践			
	8月4日、24日　山本高之と学芸員によるギャラリーツアー			
	9月2日-8日　おしゃべりアートデイズ			
	その他、事前ワークショップ複数			

①投入（支出）・③結果（収入）

印刷物等	ポスター（B2）	チラシ（A4）	館内マップ	セルフガイド	リーフレット	図録
	1,300 部	80,000 部				

収入／支出	収入（A）	支出（B）	収支比率（A）／（B）	入館者一人当たりコスト	収入内訳 観覧料	助成金	イベント参加費
予算	500,000 円	6,788,000 円	7.4%	1,697 円		・	
決算見込	355,900 円	4,992,604 円	7.1%	1,414 円	340,900 円		15,000 円
差額	−144,100 円	−1,795,396 円	−0.2%	−			
予算／決算		73.6%		83.3%			

②内容・活動

〔②内容〕事業の概要	事業の概要（転記）	先進的な教育普及活動で常に世界の注目を集めるテート美術館でラーニング・プログラムのリサーチを行ったアーティストの山本高之氏の専門性を活かしながら、新たな学びの場としての美術館を提示する。
〔②活動〕主な取組（手段）の結果 ・メディア等広報実績 ・新たな試み 図録 関連イベント 助成　など	・広報戦略 ・新たな試み（転記）	1.ゲストキュレーターを立てて、より専門性の高い展覧会とする。 2.親子向け、学生向けのワークショップを計画する。 3.市内の教育施設等との連携を行う。
	広報実績〔新規掲載や効果が大きかった媒体など、特別な案件〕	・上毛新聞、毎日新聞 ・美術手帳ネット版レビュー記事
●指標 来館者反応 手ごたえ アンケート	新たな試みの実績	・アーティストを単に招聘するのではなく、アーツ前橋の事業を共に振り返るパートナーとして企画展に関わってもらった ・企画展開幕前に開催された事前ワークショップなどを撮影し、映画のティザー仕立ての広報映像を制作した ・アーツ前橋の学芸員全員が企画に関わることで、これからのアーツ前橋のラーニングプログラムの在り方を考えた

③結果

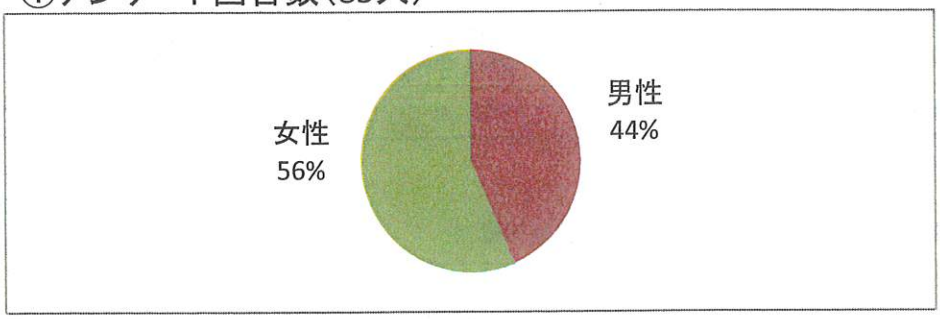
入場者数（参考数値）上段：人数（人）下段：割合（%）※色付きは有料観覧者	一般	学生	65才以上	団体	高校生以下	招待券	割引等	視察	イベント	他	合計（人）	日平均（人）
	地下はAM06展に同じ。（1階部分は内訳未カウント）										3,531	61
有料観覧者率 #VALUE!	#VALUE!	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%		

令和元年度　アーツ前橋事業評価調書(2)

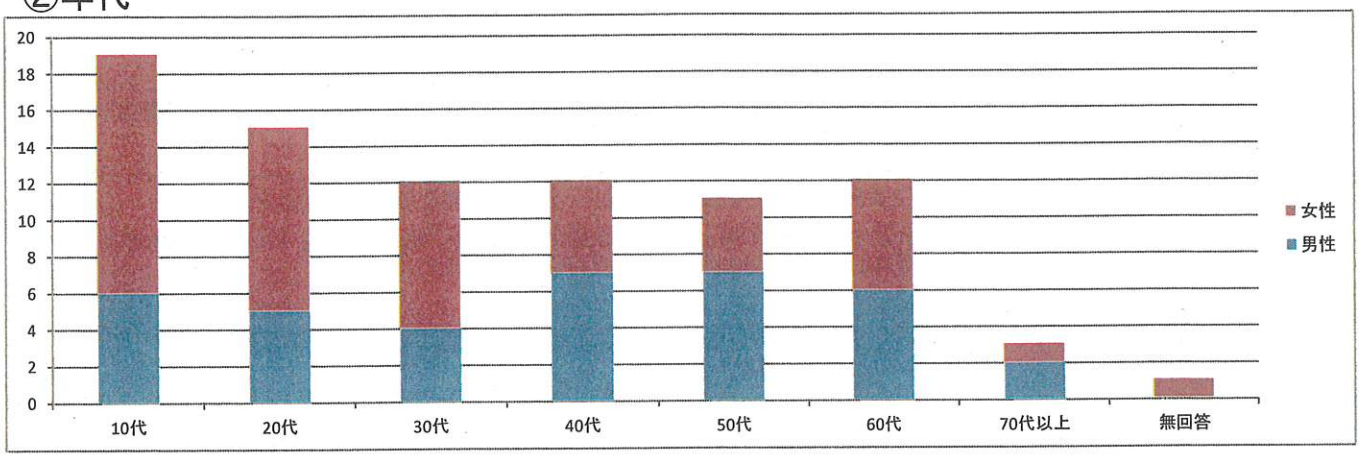
③結果	事業名	山本高之とアーツ前橋のビヨンド20XX:未来を考えるための教室				
	一般指標	指標	目標値	達成値	達成率	特記事項
		入場・参加者数	4,000 人	3,531 人	88.3 %	当初は地下ギャラリーで有料実施を想定
		展覧会満足度	80 %	70.0 %	−10.0 pt	アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合(無回答を除く)
	進捗管理 [スケジュール観]	A.概ね円滑に進んだ Ⓑ遅延気味であった( ) 開館後まで積み残しとなった事項(記録集作成)				
④成果	[④成果] 一覧表の「目標」に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	観覧者層のターゲット	近隣住民、美術教育に関心のある方			
		成果	ターゲットにリーチできたかはアンケートからは不明だが、美術教育の在り方に対しての疑問や視点を投げかけることはできたようだ。関連イベントの「図工と道徳」には多くの教育関係者が参加してくれた。			
		ねらい1 (転記)	既存のラーニング・プログラムを外部に紹介する。			
		成果	「美術館、学芸員が変わっていこうとする意思に希望を持ちました。」というように、アーツの試みを理解してくれた来館者は多くいたようだ。1Fで行ったアーツ前橋の事業展示に対する評価も見られた。			
		ねらい2 (転記)	中高生など新たな顧客の獲得と、その継続的な参画を作り出す。			
		成果	会期中に画廊すいらんに通う高校生が何度か足を運び、作家とともに展示作品などを鑑賞し、さらに彼らとの意見交換を行う機会を設けた。			
⑤波及効果	個別評価 ※記入日を()内に入れてください ※概ね1年経過毎に再確認して修正	<1～6は、記入項目の例・無い場合は削除。独自の評価項目の設定可。記入日を記載> *1. 参加作家のその後の活動を評価⇒* *2. アーツの事業に対して、誰がどのような価値を見出したのかを評価 ⇒* 3. 事業関係者(作家、運営、イベント参加者、地域住民)たちとの間で生まれた交流やその後の関係性の構築を評価⇒地元の画廊のすいらんは、これまでもアーツ前橋のプログラムに理解を示してくれていたが、実際に協働する機会を設けることができなかったが、今回のプログラムの中で積極的にプログラムに参加してくれた。また、ショップminaとは、子どもたちがワークショップで制作した作品をオークション形式で販売するなどの連携関係を築くことができた。 *4. 事業の実施に伴う波及効果 ⇒* 5. 地域資源の活用という点での効果 ⇒地元の幼稚園、大学などと連携しながら事前の作品づくりのためのワークショップを開催することができた *6. 意図せざる(思わぬ)効果 ⇒*				
自己評価(担当者)	効率性 ①:③ 事業が効率的だったといえるか	1.非常に良い	2.良い	3.普通	④劣る	
	合目的性 ②:④ 事業の目的を達成したといえるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る	
	事業の将来性 ②:⑤ 館の事業に対し将来性があるか	1.非常に良い	②良い	3.普通	4.劣る	
	社会的将来性 ③:⑤ 社会への影響に将来性があるか	1.非常に良い	2.良い	③普通	4.劣る	
	課題・改善点	今回、作家に対して個展ではなくあくまで、アーツ前橋の事業を振り返るパートナーとしての役割を依頼した。学芸チームの全員がプログラムに参加し、自身がこれまで行ってきた事業の振り返りを行いながら展示を作ることを課したため、学芸全員への負担が大きくなった。意欲的な目的を持ってはいたが、他の仕事もあるなかで事業を進めるのには少し無理があった。 また、作家の山本氏との意見のすり合わせもうまくいかないことが多く、そこからのスケジュールの遅延が多くあった。難しいミッションを作家にはお願いしていたので、もう少し作家ときちんとすり合わせをできれば、良かった。これまでの企画展の中でも、実現がとても難しい企画展だったといえる。				
引継ぎ事項 (特記事項)		作家の依頼と学芸員の力量をきちんと見極めながら、事業の実現可否を考えることが今後は大切である。また、作家との信頼関係の構築と同時に、学芸チーム内での情報の流れをスムーズに行うことが、スケジュール管理においても重要であることを改めて感じた。				
コメント・意見		館長 副館長	これまでの各事業を振り返る目的はある程度達成できたが、美術館と学校や地域を含めた教育の現状について検討して今後の事業に発展させるところまでは至らなかった。企画案がスケジュール通りに進まなかったときに当初計画の変更を判断する必要があると感じた。			
		運営 評議会				

最終更新日:R1.11.24

①アンケート回答数（85人）

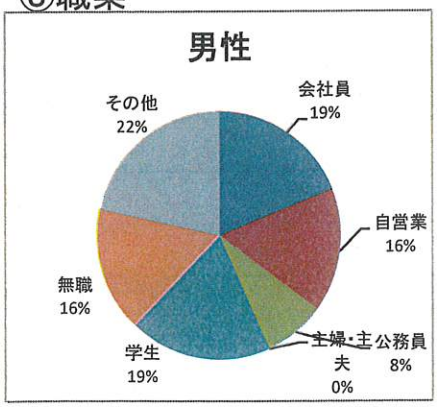


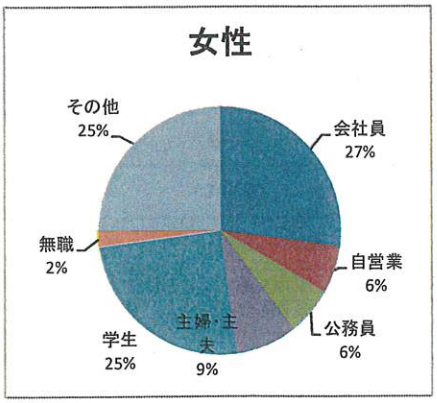
②年代

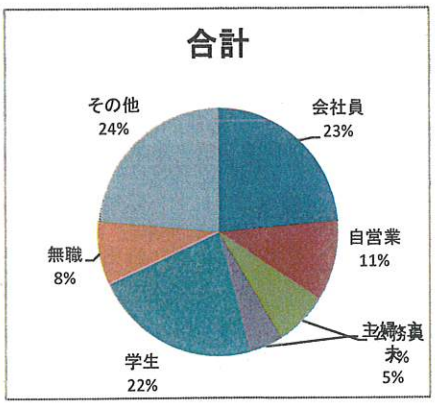


「AM06,ビヨンド20XX展」 2019.07.19－2019.09.16

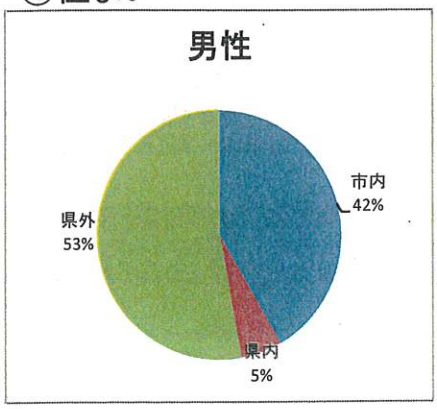
③職業

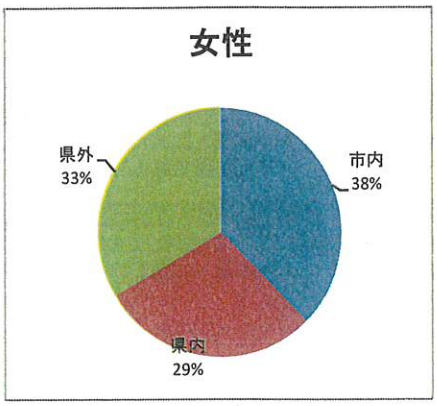


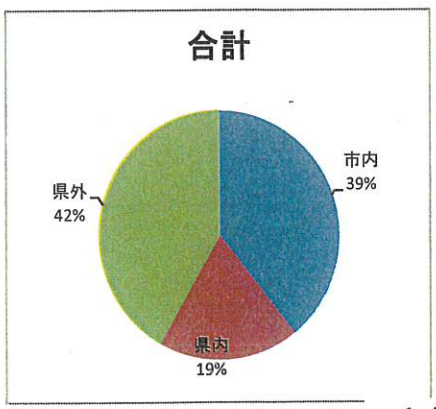




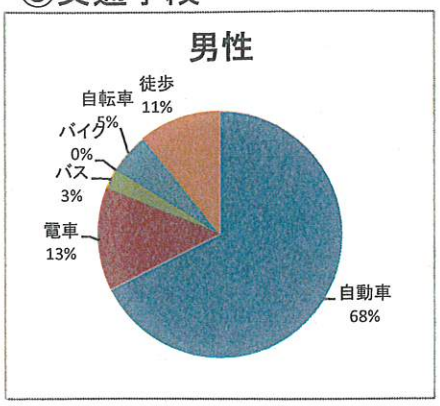
④住まい

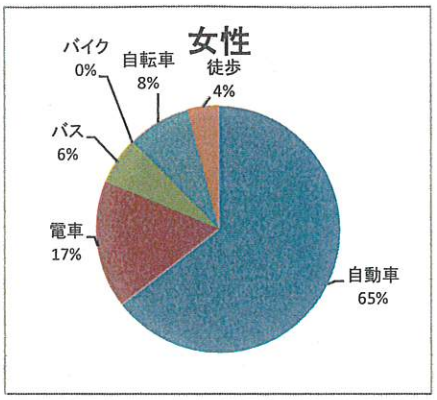


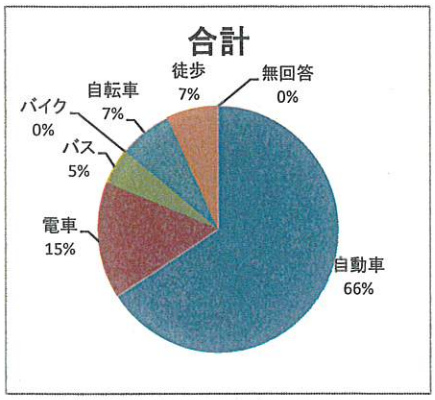




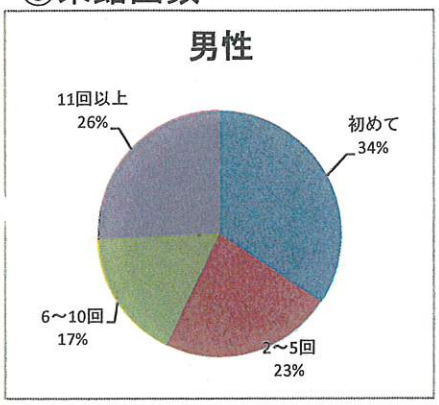
⑤交通手段

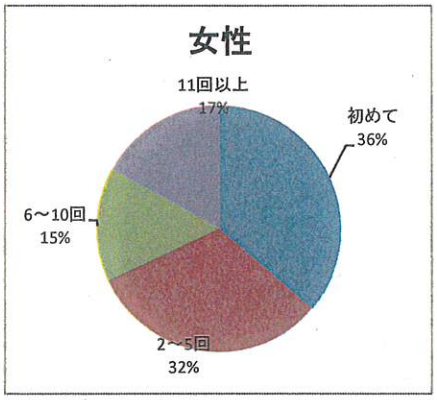


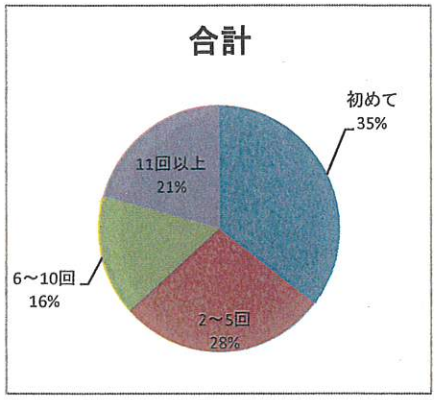




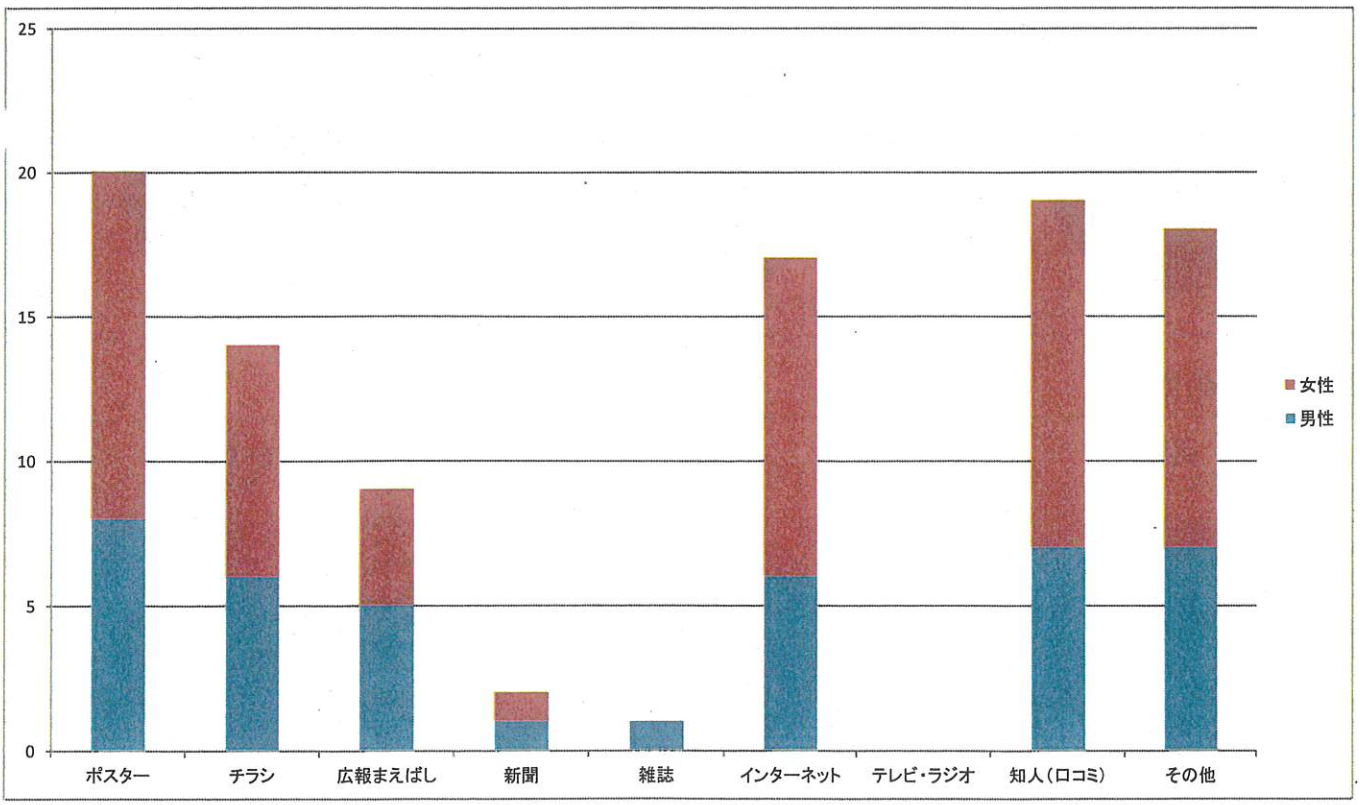
⑥来館回数



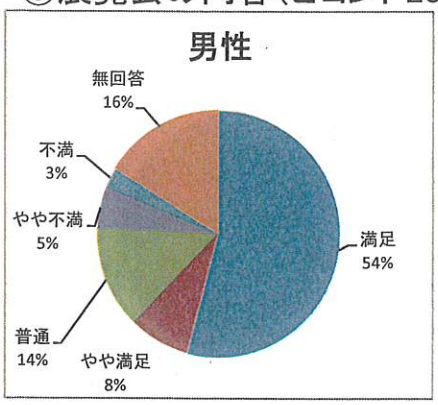


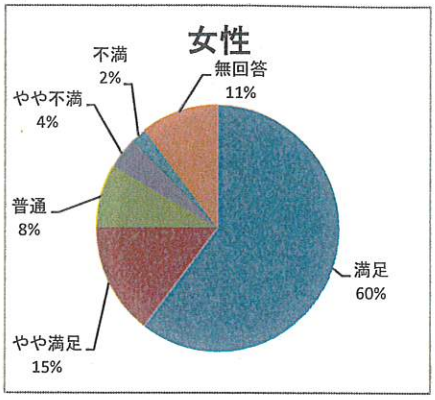


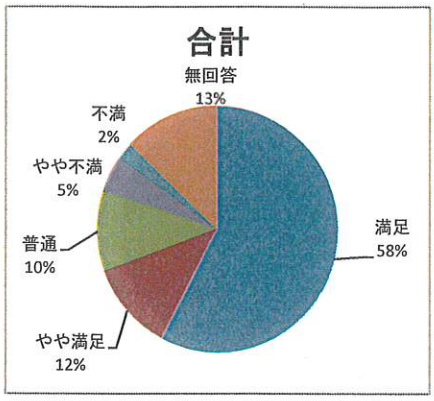
⑦企画展等を知った方法（※複数回答あり）



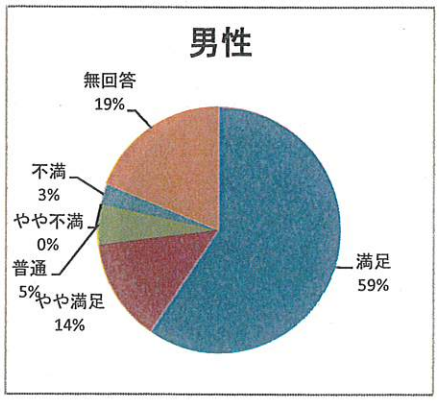
⑧展覧会の内容（ビヨンド20XX）

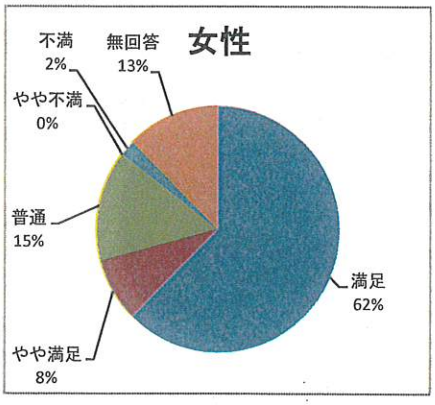


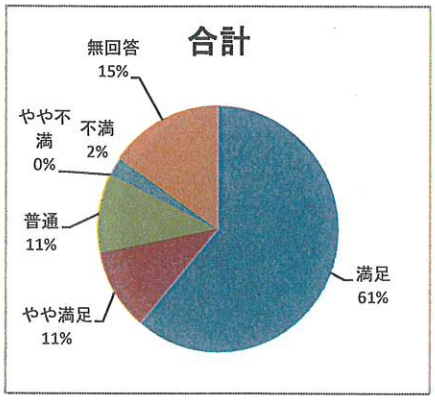




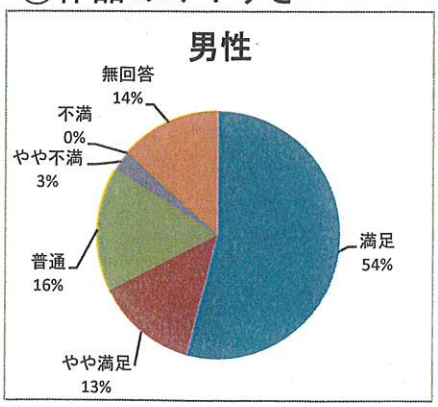
⑧展覧会の内容（AM06）

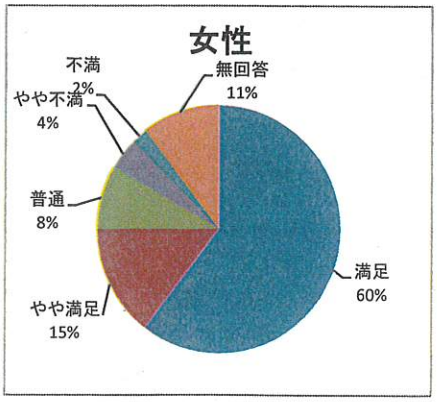


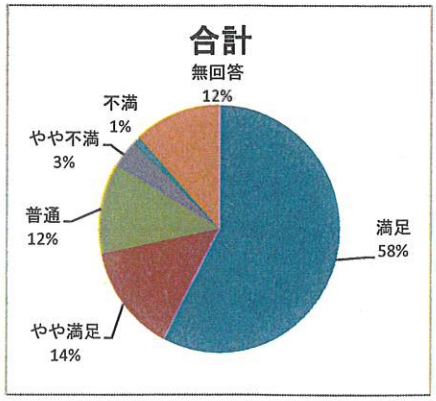




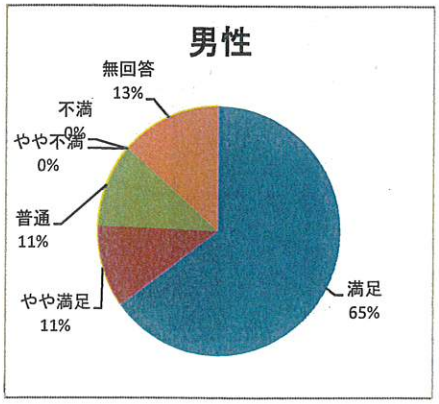
⑨作品のみやすさ

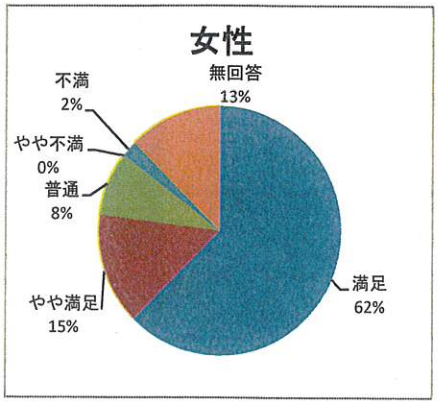


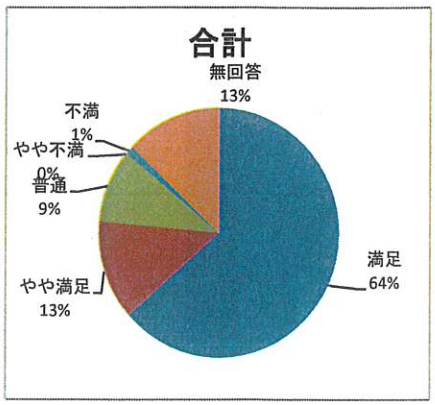




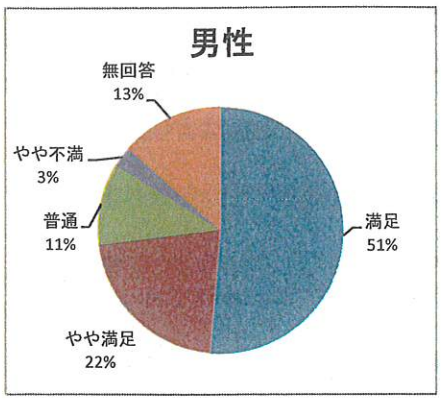
⑩スタッフの対応

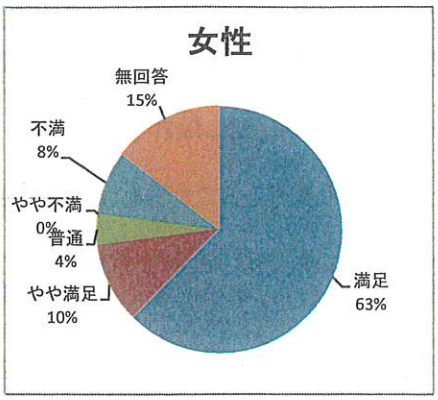


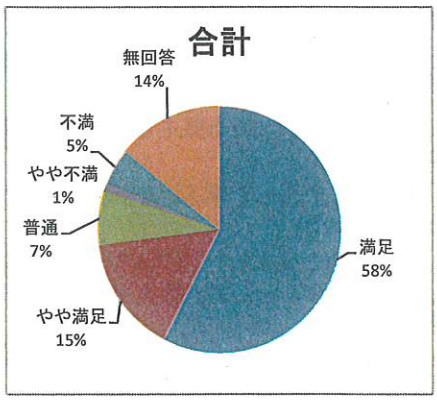




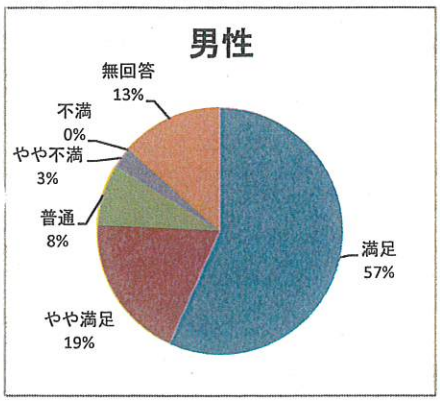
⑪施設の利用のしやすさ

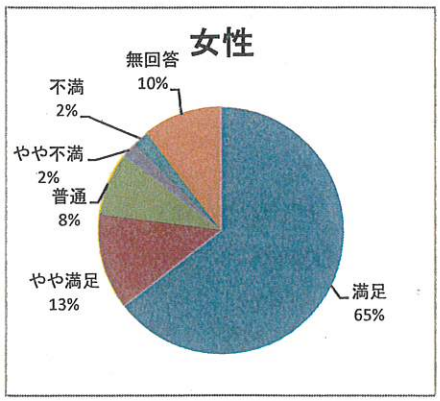


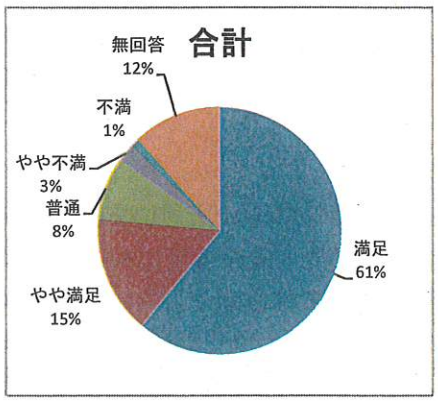




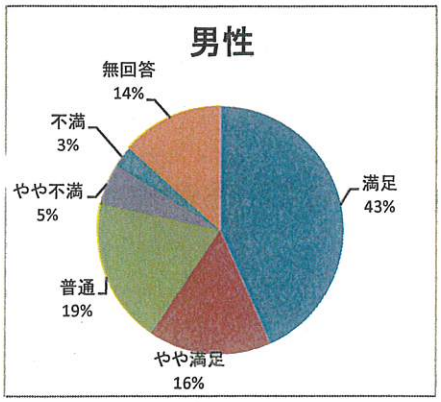
⑫アーツ前橋全体の印象

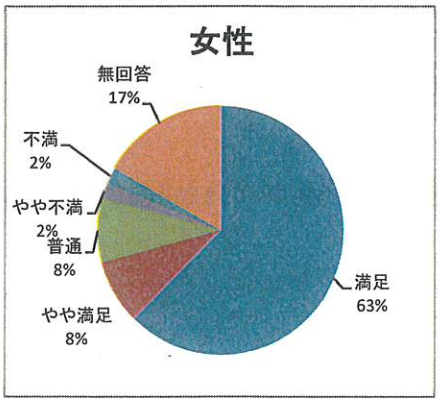


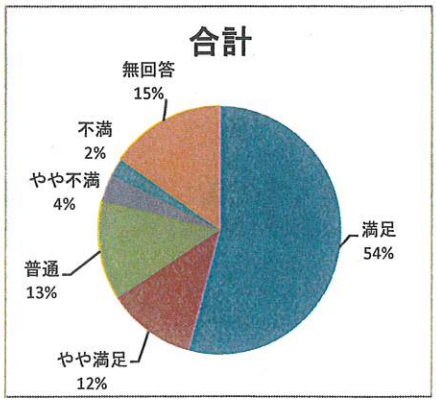




⑬アーツ前橋までの道順のわかりやすさ







（ビヨンド20XX）
●美術館、学芸員が変わっていこうとする意思に希望を持ちました。（男性・20代）
●山本さんの第3章はあまりにも作品の前提や理由が表示されてなさすぎて消化不良だった。第1章が良すぎただけに残念。（女性・30代）
●意気込みはわかる気もしますが…全体的にわかりにくい、伝わりにくい？！かもです。特に映像はよくわからず…（女性・40代）
●「美術館を通して学ぶ」が何となく分かった気がします。とてもおもしろく、全部見るのに2時間くらいかかりました。（女性・20代）
●久しぶりに来ました。（スミマセン）日よう日なのに夕方は、人が少なくてうれしいような、さびしいような…。キャプションがはなれているのは個人的には好みではありません。わかりにくいので。時間もあまりなくてすみません。（女性・40代）
●山本作品を見て子どもとの関わり方について〝図工〟やり方について考えなきゃいけないと思った。（男性・30代）
●桃川小の子どもたちの子どもらしい素の顔が見られて良かったです。学校では学校仕様の顔で頑張っているんだなと思いました。子どもたちがああいう姿でいられる学校をつくれたらいいなと思い勉強になりました。（女性・20代）
●地元の画家の作品がこんなにあるのならもっと見せて下さい。つい高崎の他数ある美術館ばかり出かけています。もっとわかりやすい企画待ってます。（女性・60代）

（AM06）
●価値観が対照的だと思いました。良い人選です。（男性・20代）
●お二人方とも何か今度にやってくれたら（男性・40代）
●門馬さんの作品がすばらしかったとくに馬（男性・40代）
●見ごたえ、ユーモアも感じられて良かった。（女性・40代）
●でっかいスマホに話すのが楽しい。個人的なスマホをみんなで見る不思議（男性・60代）

「AM06,ビヨンド20XX展」 2019.07.19－2019.09.16

●Art Meets06やんツーさんの作品。「鑑賞から逃れる」作品に対して鑑賞者が圧倒的優位にある、という事実をひっくり返されて、とても新鮮でした。（男性・20代）
●門馬美喜さんの馬の絵…大迫力で見ごたえがありました。やんツーさんの《鑑賞から逃れる》…近づくと作品が逃げてしまって、面白かったです。（女性・20代）

（共通）
●団体での入場の際に、男女毎の人数を聞かれる意味が分からないし、LGBTの観点から考えても適切ではないと思います。（男性・30代）